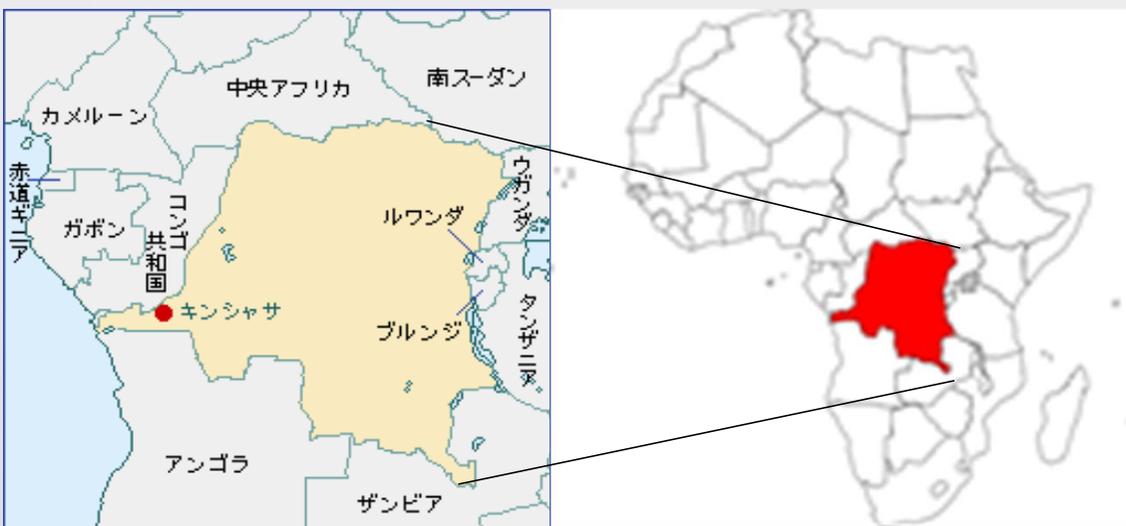


# コンゴ民主共和国（DRC） 概況



国名は、13世紀から17世紀に栄えたパンツ系コンゴ族のコンゴ王国に由来。「コンゴ」はパンツ語で「山」を意味。国旗は、水色が平和、赤が国家のために殉じた者の血、黄が国富を象徴。左上の星は、国家の輝かしい未来を表している。



日・コンゴ（民）首脳会談（2025年8月21日）

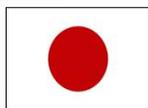
在コンゴ民主共和国日本大使館（2026年1月時点）

# コンゴ民主共和国：基本情報



- 面積：約234.5万平方メートル（日本の約6倍、アフリカ大陸で第2位）
- 人口：1.1億人（IMF、2025年）（首都キンシャサのみで推定2,000万人弱）  
（1970年代に2,000万人弱であった人口は、2000年に5,000万人、現在約1.1億人、2075年には4億人になり世界第5位の人口大国となる予測。また、14歳から34歳までの年齢層が労働年齢人口の約58.3%を占める（2023、AfDB）。平均寿命61歳（2023、世銀）。）
- 言語：フランス語（公用語）、リンガラ語、スワヒリ語、チルバ語、キコンゴ語等
- GDP：880億米ドル（IMF、2025年）
- 一人当たりGDP：801米ドル（IMF、2025年）
- 主要貿易相手国（ITC、WTO）  
（輸出）中国、南ア、タンザニア、ザンビア等  
（輸入）中国、インド、南ア、EU、UAE等
- 進出日本企業数：5社（2026年1月現在）
- 在留邦人数：70人（2026年1月現在）  
（1980年代には、鉱山関係ビジネスマンや技術者など約1,000人の在留邦人が当地に居住）
- 対コンゴ（民）経済協力：①人間の安全保障の実現（紛争・貧困・感染症との闘い）、②経済成長を支える産業・経済基盤の強化、③環境保全及びグリーン・トランスフォーメーション（GX）の推進、の3本柱で協力を実施。直近では、「キンシャサ市モンアンバ地区における電力アクセス改善計画（供与限度額38.98億円）」等の無償資金協力や技術協力を実施中。なお、有償（円借款）資金協力は再開に向けて準備中。

【出典】  
IMF, <https://www.imf.org/en/countries/cod>  
World Bank, <https://data360.worldbank.org/en/economy/COD>  
対コンゴ（民）国別開発協力方針、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072392.pdf>



## 日・コンゴ（民）二国間関係



- 日本は、同国独立前の1955年に領事館を設置、1960年の独立と同時に大使館を設置。1960年代末以降、石油や銅等の採掘に日本企業が多数参入。一時は在留邦人が約1,000人に上った。
- 1984年には皇太子同妃両殿下（当時）が訪問。2005年には、カビラ大統領（当時）が実務訪問賓客として訪日。
- 2019年8月、TICAD7にチセケディ大統領が出席（コンゴ（民）大統領のTICAD出席は初）。
- 2022年8月、TICAD8にサマ・ルコンデ首相（当時）が出席、岸田元総理と首脳会談を実施。同年10月、ルトゥンドゥラ副首相兼外相（当時）とムアンド計画大臣（当時）が国葬儀に出席のため訪日。2023年8月に西村経産大臣（当時）が、また、2024年1月に深澤総理特使（当時外務大臣政務官）が大統領就任式出席のために、さらに、同年2月に石井経済産業大臣政務官（当時）を団長とする官民合同ミッションがコンゴ（民）を訪問。
- 2024年8月、日・AU友好議連（牧原秀樹衆議院議員、江島潔参議院議員、青山繁晴参議院議員、武井俊輔衆議院議員、国光あやの衆議院議員（いずれも当時））が訪問。同月にカザディ国際協力・仏語圏担当大臣（当時）が、TICAD閣僚会合に参加するために訪日。
- 2025年4月、在京大使館主催によって、東京にてコンゴ（民）・日ビジネスフォーラムを開催。また、同年6月には、大阪・関西万博ナショナルデー出席のためスミヌワ首相が訪日し、大阪でビジネスフォーラムを開催。
- 2025年8月、TICAD9にスミヌワ首相が出席し（短期間で2度の訪日）、5閣僚が同行（ムココ副首相兼国家経済大臣、ワトゥム鉱山大臣、エキラ職業訓練大臣、パルク貿易大臣、アイェガナガト外務副大臣）。首脳会談では、石破総理（当時）から、投資協定を視野に入れた予備協議を行うことを提案。

### 【参考】

・2025年8月21日、外務省、日・コンゴ民主共和国首脳会談、[https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af1/d\\_congo/pageit\\_000001\\_02304.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af1/d_congo/pageit_000001_02304.html)

# コンゴ（民）政治情勢（独立から現在まで）



●1960年の独立以降、クーデターや騒擾を繰り返し、1998年、政府と反政府側の対立に近隣諸国（ウガンダ、ルワンダ、アンゴラ、ジンバブエ等）が介入して紛争が勃発。2001年、カビラ（父）大統領暗殺。

●2001年、ジョゼフ・カビラ大統領就任後、和平プロセスが進展。2002年暫定政権成立に関する合意（プレトリア包括合意）が成立。

●2005年12月、憲法草案に関する国民投票を実施、2006年2月新憲法公布。2006年、初の本格的な議会・大統領選挙が行われ、ジョゼフ・カビラが大統領に就任。2011年1月の大統領選挙で再選された。

●2009年3月、北キブ州を中心に活動を続けていた人民防衛国民会議（CNDP）等武装勢力と政府との間で和平合意が成立。武装勢力の国軍への統合が決められたが、2012年4月より、元CNDPの一部（M23）が国軍を離脱、国軍と軍事衝突。2013年12月、戦闘行為終了に関する宣言発出。

●2016年12月、次期大統領選挙日程未確定のまま、カビラ大統領は任期満了を迎えた。

2016年12月31日に与野党間で結ばれた政治合意を経て、2018年12月に選挙を実施することを発表。

●2018年12月、野党候補のチセケディ民主社会進歩連合（UDPS）党首が勝利し、初めて選挙による政権交代が行われ、2019年1月24日にチセケディ大統領が就任。

●2023年12月に再選し、2024年1月に二期目の任期を開始。（任期5年、現行憲法上は三選不可）。

●2024年5月、サマ・ルコンデ首相の後任として初の女性首相スミヌワ内閣発足。



チセケディ大統領

## 【参考】

・コンゴ民主共和国、テロ・誘拐情勢、安全の手引き、[https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pterror\\_103.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pterror_103.html)

・チセケディ（S.E.M Félix Antoine TSHISEKEDI TSHILOMBO）大統領：父親は、1990年代（ザイール時代）に首相を務めたエティエンヌ・チセケディ。1980年代初頭に父親がUDPSを立ち上げ、モブツ大統領（当時）に反旗を翻したため、父親とともに父親の故郷で軟禁された経験を持つ。1985年の解放後、ベルギーに亡命。2018年の大統領選挙で大統領に選出。2023年の選挙で再選を果たし、現在は二期目。

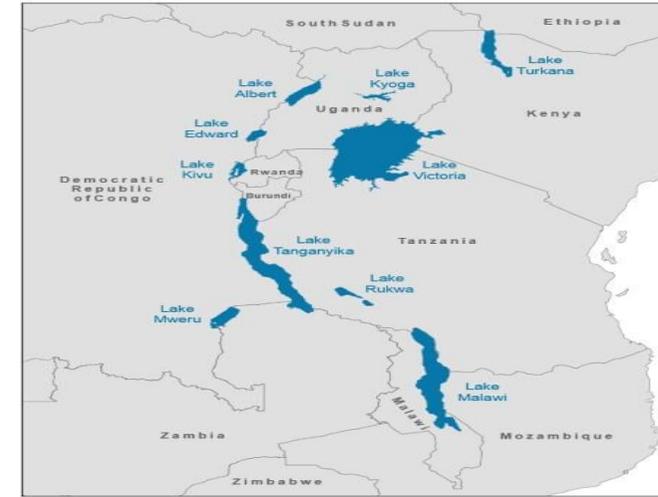
# 大湖地域情勢

●コンゴ（民）東部では、1994年のルワンダでの大量虐殺による難民流入以降、混乱が続き、ルワンダ等の周辺国の侵入や内戦を招いた。このため、民族対立及び同対立を口実とした暴力や紛争が長年継続しており、現地では100を越える武装勢力が活動。主要武装勢力であるM23（3月23日運動、ツチ系）は、ルワンダ政府の支援を受けていると指摘されており、コンゴ（民）とルワンダは緊張関係が続いている。なお、東部には3T鉱物（スズ、タンタル、タングステン）が豊富に埋蔵されており、コンゴ（民）政府はルワンダによる天然資源の略奪と違法な搾取を批判している。

●2025年1月末以降、AFC（コンゴ川同盟）/M23が勢力圏を拡大し、コンゴ（民）東部の主要都市である北キブ州のゴマ及び南キブ州のブカブを制圧。また、同占領に端を発し、首都キンシャサ市内で欧米・アフリカ諸国大使館に対する襲撃や放火、一般商業施設に対する襲撃や略奪などの暴力的デモが発生し、多くの欧米の大使館や国連機関が非主要職員や家族及び在留自国民を一時退避させる事態となったが、それ以降、キンシャサ市内においては目立ったデモは発生しておらず、暴力的デモ発生の数か月後にこれら措置は段階的に解除。

●昨年以來、コンゴ（民）東部情勢は急激に悪化し、これまでにフランス等が仲介を試みるも解決には至っていない。最近では、米国の仲介により、2025年6月27日、両国外相が和平合意に署名。また、同年12月4日、米国にて、トランプ米大統領同席の下、チセケディ・コンゴ（民）大統領とカガメ・ルワンダ大統領は、平和と繁栄のための「ワシントン合意」に署名。コンゴ（民）・米国は、重要鉱物の安定供給・サプライチェーンの強靱化、サカニア-ロビト回廊を戦略的インフラとして位置づけるなど鉱物資源・エネルギー・インフラ・技術産業等の広範分野における協力を言及している「戦略的パートナーシップ協定」及び「拡大された安全保障パートナーシップ覚書」に署名（鉱物資源と引き換えに米国による安全保障のコミットメントを狙ったもの）。但し、現場では和平合意が必ずしも遵守されておらず、AFC/M23を通じた反逆罪、戦争犯罪等の罪状で2025年9月に欠席裁判でカビラ前大統領に死刑判決を下すなど依然不透明な状況が継続。

●また、アフリカ連合（AU）やカタルによる仲介も活発化している。9か国と国境を接し、周辺諸国の情勢が国内の安定に直結するコンゴ（民）は、国内・域内安定と平和の確立、周辺地域国（大湖地域）との友好関係強化に重点を置いている。平和の定着、国家再建のための協力を得るため、欧米諸国との関係強化を図っている。なお、コンゴ（民）は、中国との関係も伝統的に良好であるが、現政権はパートナーの多角化を指向。



2025年12月4日、「ワシントン合意」署名の様子

## 【参考】

・コンゴ民主共和国、テロ・誘拐情勢、安全の手引き、[https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror\\_103.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_103.html)

# 経済・財政状況

- 世界有数の天然資源産出国（コバルト、ダイヤモンド、銅等）であり、輸出の約9割を鉱物資源が占める（コバルト、タンタル、銅、原油、ダイヤモンド等）。また、広大な森林と豊かな水資源を有し、林業・エネルギー産業の潜在力も高い。
- コンゴ（民）の経済は鉱業セクターが中心であり、2022年にはGDPの34.8%、歳入の40%、輸出の98.9%を占める（2022、AfDB）。他方、2025年2月にはコバルトの一時輸出停止が発表されたため、同年は影響を受けた可能性あり。
- 長期の紛争に起因するインフラの未整備や内陸国に近い地理的不利、政治・行政のガバナンス問題や腐敗等により、豊かな資源・潜在力にも拘わらず、国民の生活水準は極めて低い（人間開発指数（HDI）は189か国中179位（2021年）。賃金労働者の平均月収は月額45.4ドル（2022年、ILO）。
- 経済成長見通しは、鉱業、建設・公共事業、貿易の牽引により、2025年には5.6%と引き続き好調を維持すると予測（AfDB）。
- 財政赤字は、2024年にはGDPの2%に増加したが、2025年には1.1%に低下すると予測。平均債務対GDP比は20%を下回る水準を維持すると予測。経常収支赤字は、外国直接投資により、平均GDPの4%に改善すると予測。累積外貨準備高は61億米ドル（輸入の2.3か月分）に達すると予測。
- リスクとしては、ロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ紛争、一次産品価格の下落、インフレと為替をめぐる緊張、コンゴ（民）東部における鉱物資源の略奪に伴う不安定化といった不確実性（AfDB、2025）が挙げられる。
- 2025年、1USD=2,800コンゴ・フラン（CDF）から、1USD=約2,200CDFのフラン高が進行。なお、2025年8月14日付の官報他によって、コンゴ（民）国内市場では、コンゴ・フランによる価格表示と請求書発行が義務付けられている（実際は米ドルが流通）。

# 貿易



● 主な貿易相手国は中国及び南アフリカ (2023、コンゴ(民)中央銀行)

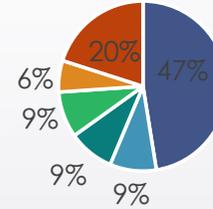
● 主な輸出品は鉱物資源（銅やコバルト等）。その他は材木やタイヤ等のゴム等。輸入品は最終消費財、機械類、製油、食品など多岐にわたる (2022、世銀)。

● 日本は、コンゴ（民）全輸入額の0.95%を占める(輸出はごく僅少)。他方、2025年自動車新車販売の約85%がトヨタ、近年推定マーケットシェアが首位になったJTI、高級ウィッグの原材料の約4割がカネカ製品といった点で貿易統計には表れない存在感がある。

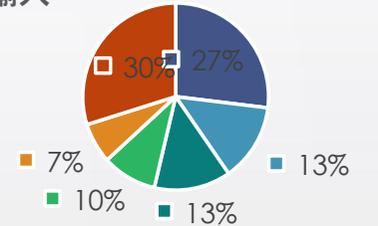
● コンゴ(民)政府は、日本を含む多様なパートナーのさらなる進出(付加価値化、インフラ投資)を期待。

● 投資促進庁(ANAPI)は、投資・ビジネス環境の改善に取り組んでおり、また、コンゴ(民)経団連(FEC)は各州に支部を有して、積極的に活動している。

国別輸出



国別輸入



■ 中国      ■ タンザニア      ■ 南アフリカ      ■ 中国      ■ 南アフリカ      ■ EU  
■ シンガポール      ■ ザンビア      ■ その他      ■ UAE      ■ インド      ■ その他

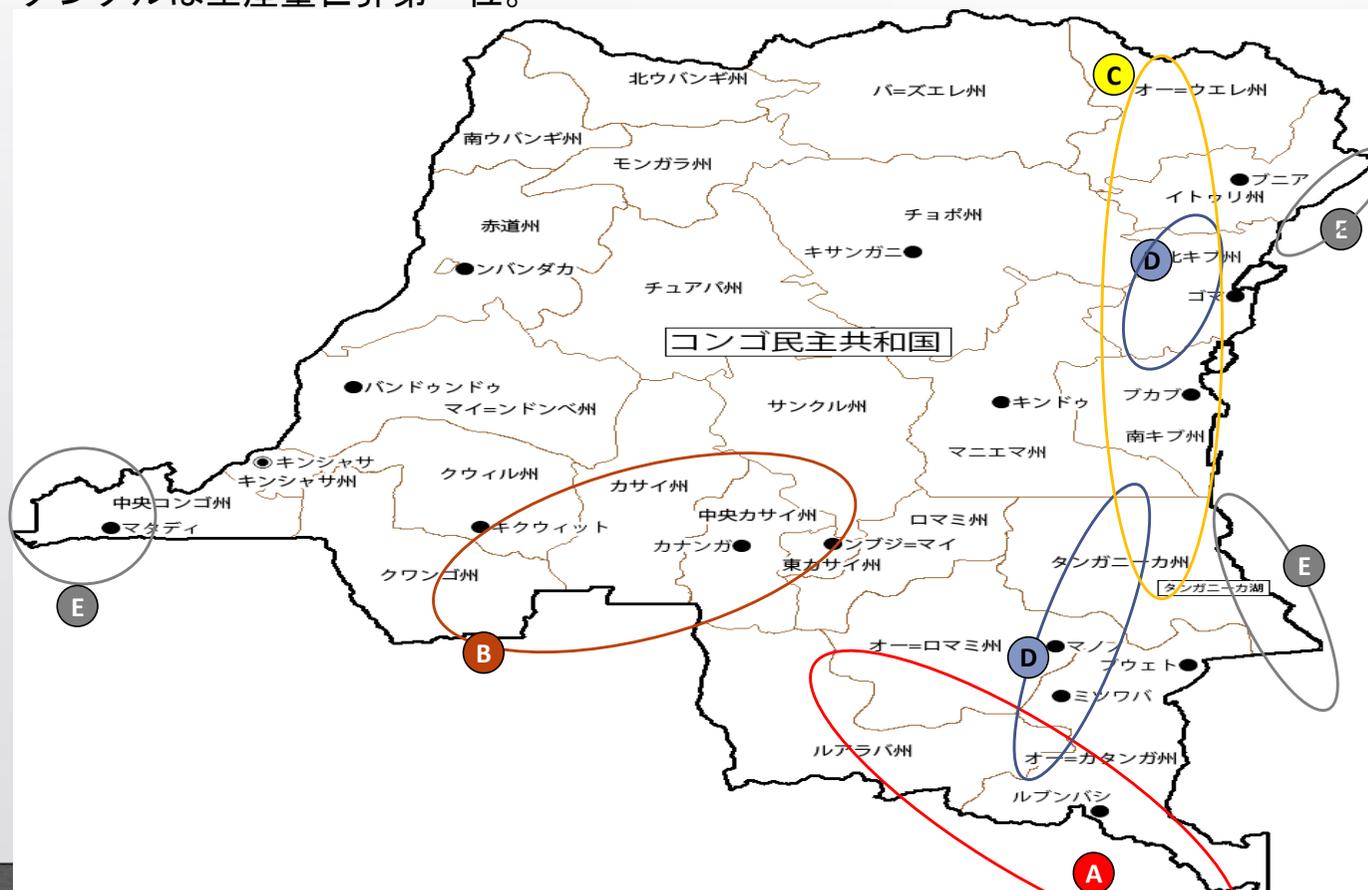
		主要品目
対米	輸出	鉱物資源（銅、コバルト、ダイヤモンド）、農産物（カカオなど）
	輸入	医薬品、機械類、食品
対日	輸出	銅、コバルト、カカオ
	輸入	自動車、自動車部品、タイヤ、食品
対中	輸出	主に鉱物資源（銅、コバルト）、食品
	輸入	製造品、機械・輸送機器、化学・医薬品、金属製品
対南ア	輸出	鉱物資源
	輸入	鉱業製品、化学、医薬品、機械、輸送機器

【参考】

- Investors Guide ANAPI (September 2023), [https://anapi.cd/wp-content/uploads/ressources/investors\\_guide\\_anapi.pdf](https://anapi.cd/wp-content/uploads/ressources/investors_guide_anapi.pdf)
- WTO Trade statistics 2022, [https://www.wto.org/english/res/e\\_stats/e\\_stats\\_e\\_daily\\_update\\_e\\_trade\\_profiles/13\\_e.pdf](https://www.wto.org/english/res/e_stats/e_stats_e_daily_update_e_trade_profiles/13_e.pdf)
- JETRO, 2025, <https://www.jetro.go.jp/world/qa/04A-001166.html>

# 鉱物資源の分布状況

- *Geologic scandal*と言われるほどの豊富な資源は、国際競争力を持つ貴重な産業となっている。
- 特にコバルトは自動車・電子機器メーカー等の需要増大に伴い外資系企業からの関心が高い。銅は品質が高く、コバルト、タンタルは生産量世界第一位。



	埋蔵量 (全世界シェア)	世界に占める鉱石 生産量や特徴
<b>A</b> 銅	約3% <sup>1</sup>	鉱石生産量約8.8% <sup>2</sup>
コバルト	約4.6% <sup>2</sup>	鉱石生産量約70% (世界1位) <sup>2</sup>
ウラン		
<b>B</b> ダイヤモンド	約1.2% <sup>1</sup>	
<b>C</b> 金		小規模・零細鉱山での操業が中心
<b>D</b> タンタル		鉱石生産量約3.3% (世界1位) <sup>2</sup>
スズ	約2.7% <sup>2</sup>	鉱石生産量約4% <sup>2</sup>
タングステン		鉱石生産量約0.1% <sup>2</sup>
リチウム		ペグマイト (陸上岩盤)
<b>E</b> 原油		タンガニーカ湖及びアルベル湖等 <sup>3</sup>
メタンガス		

【出典】1. 米国地質調査所 (USGS), "Mineral Commodity Summaries" (2018年版)  
 2. Mineral Commodity Summaries 2022/World Metal Statistics Yearbook 2022  
 3. 国内外の報道でサロンガ国立公園 (中部) 及びヴィルンガ国立公園 (東部) においても石油が埋蔵しているとされる。

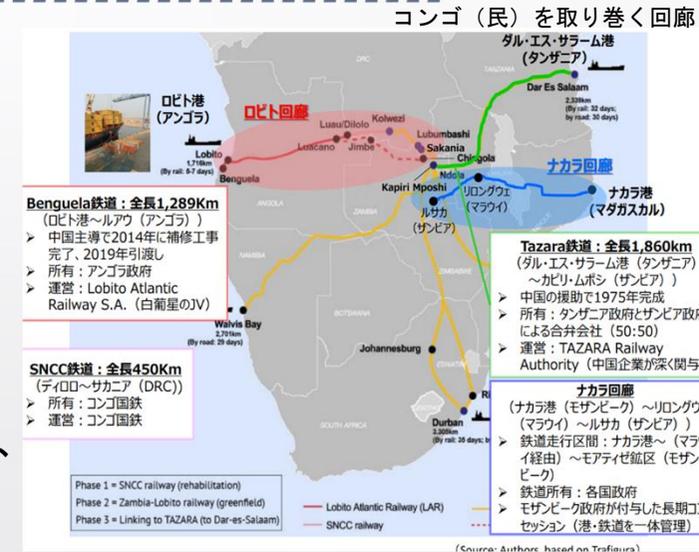
# 各セクターのポテンシャル

●**農業**：降水量に恵まれた広大な可住・可耕地（世界第二位の広さ・流量を誇る熱帯林とコンゴ川）。過去5年間の名目GDPの35%以上、雇用創出の60%以上を占めている。農業労働力の70.7%は女性。モロコシ、コメ、キャッサバが重要な農産物。FAOによれば、キャッサバ生産量は2019年に約1,500万トンで、世界第3位の生産国。一方、米の生産量は比較的少なく、JICAの技術指導も実施。

●**インフラ**：9か国と国境を接するコンゴ（民）を取り巻く回廊の開発。国内外の接続性は低く、道路、港、鉄道、橋梁、電力等、経済社会発展を阻む弱点でもある。世銀の「運輸インフラ開発総合指数2018～2020」によれば、コンゴ（民）はアフリカ54か国中50位。

●**エネルギー**：チセケディ大統領主導の下、145地域開発計画（PDL-145T）の実施を通じて、全体的な生産性を向上させることを目標としている。電力アクセス率は非常に低く（2020年時点で28.8%）、格差も大きい（キンシャサで50%、その他都市部で43.8%、農村部では1%未満）（2023、AfDB）なお、大規模なポテンシャルを有する水力発電、グラン・インガ計画は、現行の第1、2ダムに加え、第3～第8ダムで合計46,000MWを見込む巨大構想（世界最大の中国三峡ダムの約2倍、日本の著名な「黒四発電所」は337MW、日本最大の奥只見発電所は560MW。）。

●**保健・衛生**：水、衛生設備、良好な衛生に関して、2019年複数指標クラスター調査（MICS）によれば、アクセス率はそれぞれ33.6%（水）、13.5%（衛生設備）、21.4%（良好な衛生へのアクセス）。マラリア、エムポックス、エボラ出血熱、コレラ、「未知の病」等の病が発生。2025年、日本政府は、日本製のエムポックス・ワクチン（LC16m8）305万ドーズ及び二又針をコンゴ（民）政府に供与。



Source: Kapandji Kalala, 2017.

## 【参考】

- ・ DRC Country Strategy Paper 2023-2028, African Development Bank
- ・ アフリカ地域における再生可能エネルギーの民間投資促進に係る情報収集・確認調査ファイナルレポート(2022), JICA

# ビジネス環境における諸課題

- **ガバナンスの欠如**：コンゴ（民）政府も問題意識は有しており、外交団と関係閣僚との定期的なビジネス環境改善会合を実施しているが、特に財務・税制、司法・法執行分野における深刻な汚職や非効率さは大きな課題。
- **治安情勢**：コンゴ（民）東部地域には引き続き多数の武装勢力が残存し、特に2025年1月以降、ルワンダの支援を受ける反政府武装組織M23による活動が活発化しており、ルワンダ・コンゴ（民）間の緊張の高まり、イスラム過激主義（ADF）グループ等の活動と相俟って、国内外避難民の数は、昨年1月以降の治安情勢悪化によって、約100万人増加し、800万人以上に（2025, UNHCR）（ウクライナ、シリア、アフガニスタンに匹敵する「忘れられた戦争」）。他方、これら東部三州（北キブ州、南キブ州、イツリ州）とキンシャサや南部鉱山地帯は1,000キロ以上離れており直接の影響は限られるが、2025年1月に東部情勢に触発されてキンシャサで発生した暴力的デモ等の不測の展開やクルナと言われる半グレ集団、機会主義的強盗等には留意が必要であり、徒歩は勿論、一般公共交通機関の利欲も極力控える必要がある。
- **インフラ不足**：輸送（港、道路、鉄道など）、電力といった基礎インフラ不足。
- **言語**：公用語はフランス語であり、英語の通用度は極めて低い。
- **風土病**：マラリアやコレラは都市部でも常在、この他地域・時期により、エムポックス、エボラ出血熱、マールブルグ病、ポリオ、「未知の病」等の病が発生。

お問い合わせ先：在コンゴ民主共和国日本大使館(日本企業支援アドレス)：business-support.drc@ki.mofa.go.jp

# 出入国関連情報（キンシャサ）

## （到着）

- キンシャサ・ンジリ (Ndjili)国際空港には、ボーディングブリッジがないため（いわゆる沖留め）、着陸後、構内バスに乗り、入国審査・税関へ。
- 入国審査後、係員によるイエローカードの確認あり。イエローカードの期限が切れていると難癖を付けられることがあるが無視（現在は券面の記載によらず無期限で有効）。
- ターンテーブルにて預け荷物を待つ（通常、1~2時間程度を要する）。
- 荷物回収後、係員が出口前で各預け荷物と半券のバーコードを照合するので保持しておく必要がある。照合後、荷物をX線に通す必要があるが、当国の場合、酒類や食品の持ち込みは通常問題にならない。

## （出発）

- 国際線は出国時にGO PASSと呼ばれる空港使用料支払証明書の購入（55米ドル、現金推奨）が必須（国内線は15米ドル）。GO PASS支払いカウンターにて、55ドルを支払い、紙を3枚受領する。白レシートとピンク紙は控え、白紙（GO PASS）は搭乗時に提出が必要（右写真参考）。
- 制限エリアには、お手洗いと椅子等の基本的な設備に加えて、簡易的なお土産ブース、カフェ、有料ラウンジがあるのみ。
- なお、空港・市内間には鉄道や高速道路がなく、渋滞度合いは予測できないため、ハイヤー等の市内出発は搭乗便の5~6時間前を推奨。



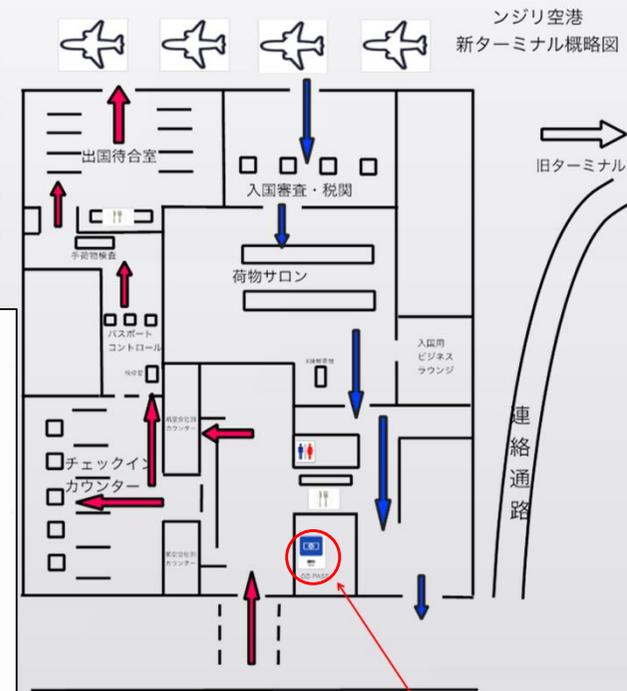
↑ GO PASS, 搭乗時に提出



↑ 領収書（回収されない）



ンジリ空港 国際線ターミナル



駐車場 GO PASS支払いカウンター